

# 「健康科学クリニック」

寄稿

## 大阪医科薬科大学 健康科学クリニックのご紹介

健康科学クリニック

所長

福田 彰

### レディースクリニック

健康科学クリニック

大阪医科薬科大学

名誉所長

功労教授

後山 尚久

### 脳ドック

健康科学クリニック

大阪医科薬科大学病院 脳神経外科・脳血管内治療科

梶本 宜永

### 海外渡航者外来

健康科学クリニック

大阪医科薬科大学病院 感染対策室

室長

小川 拓  
(敬称略)



JR高槻駅ビル3階～6階 健康科学クリニック

## 大阪医科薬科大学 健康科学クリニックのご紹介

### はじめに

このたび大阪医科薬科大学医師会様のご厚意により、健康科学クリニックを紹介する企画をご提案頂きました。そこで折角の機会でもあり、当施設の設立から現在に至るまでを振り返り、健診内容や実績・現状など、健康科学クリニックの概略について、ご報告させていただきます。



福田 彰先生

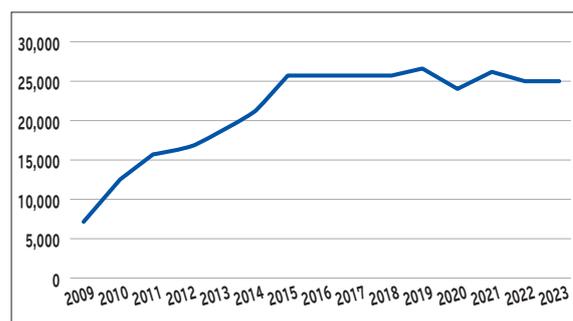
### 大阪医科薬科大学 健康科学クリニックの設立

大阪医科薬科大学健康科学クリニックは、2009(平成21)年6月、JR高槻駅ビル内に開院しました。当施設に託された大きな役割は「地域住民の未病の発見および健康維持のための様々な健診とフォロー診療」であり、同時に大学法人直轄の事業として「大学の教育・研究施設としての予防医学・公衆衛生学・健康生成医学の実践」にありました。

しかし、開設の立ち上げに関わったスタッフの多くは、健診業務に関しての知識も経験も乏しく、ほぼゼロからの出発であり、その苦労は想像以上に大変だったようです。報告書をはじめとしたシステムの構築、健診内容やコースの企画、スタッフ募集と育成、企業や協会との渉外・契約等々、試行錯誤の繰り返しであったとお聞きしています。多くの紆余曲折があったなか、挫けず諦めず地道な努力が続けられた結果、受診者数は年々増加して施設のほぼ許容上限人数に達し(約2万5~6千人/年)、現在では安定した状態を維持しています(図1)。健診の予約も約半年先でもほぼ埋まる状況で、事務室で電話

が鳴ると健診予約であれと祈った頃には想像もできなかった状態になっています。これも、地域住民、行政、医師会、契約企業団体、そして大学本院のご支援ご指導の賜と、関係者一同、心より感謝している次第です。

図1：健診者数の推移



大阪医科薬科大学健康科学クリニックは、「本学の長年に亘り培った医学教育と臨床研究を基盤に、未病の発見と健康寿命の延伸に取り組み、よって健康文化に貢献します」を一貫した施設理念とし、その実現に取り組んできました。そして設立から約15年経過した現在、当施設は、質・量ともに、本邦でもトップクラスの健診施設に成長しています。

### 施設フロアと健診コース

当施設は、JR高槻駅に直結した駅ビル内にあり、阪急高槻市駅や大学病院にも近接した、非常に恵まれた立地環境にあります。この駅ビルの3階~6階がクリニックで、各フロアは主に、3階は検診・外来受付、4階は婦人科検査・診療、5階は内視鏡・放射線検査、6階はドック受付・血液・各種生理検査となっています(写真1)。

健診の内容に関しては、大きな2つの目標である「悪性疾患を含めた疾患の早期発見」、および「生活習慣病の発症予防」を中心に、受診者のニーズに合わせた健診コースを用意していま

す。豊富で充実したコース内容とその報告書の見易さと丁寧さは、他施設には見られない特長であると自負しています。

午前中は、各フロアを巡るドック健診を行っています。コース内容として、人間ドック(基本・女性・肺の各種コース)の他、脳・肺・心・肝・膵・メタボ脂肪肝等の各種ドック、がん検診(乳

がん・子宮がん)、各種オプションおよび個別の検診、さらに当施設ならではのPET検診等があります。また午後は、肺・乳がん検診の他、健診異常例の診療を主目的とした、総合内科、消化器・肝臓内科、循環器内科、乳腺・婦人科等の各種外来診療を行っています。その他、市民検診(高槻市・島本町)や周辺地域のクリ

写真1：各健診フロア

6階

人間ドック全コース  
身長・体重・血圧・  
視力・聴力・眼圧・眼底  
肺機能・心電図・血圧脈波  
各種エコー  
(腹部・乳腺・頸動脈)



5階

人間ドック全コース  
肺がん検診(市民)  
胃がん検診(市民)  
胸部X線・骨密度測定  
CT(胸部・腹部)  
上部消化管X線  
上部消化管内視鏡  
内臓脂肪測定



4階

人間ドック女性コース  
乳がん検診(有料・市民)  
子宮がん検診(有料・市民)  
婦人科診療、乳腺専門外来診療  
マンモグラフィ  
経膣エコー



3階

大腸がん検診(市民)  
ピロリ検診(市民)  
前立腺がん検診(市民)  
各種予防接種  
内科診療  
消化器内科  
循環器内科  
総合内科



ニックからのオープン検査も受付けています。

当施設の各種健診の詳細に関しては、当施設のパンフレット(写真2)や毎年発行している年報(写真3)、HP(<https://www.ompuhsc.jp>)に詳しく記載されていますので、ご覧頂けると幸いです。

人間ドック受診者で希望される方には、医師が当日の採血結果の説明と報告をしています。また指導が必要と判断された受診者に保健指導を保健師・管理栄養士が行っています。これ

は、生活習慣の是正など健診業務の重要な役割で、内容の充実と共に実績数も飛躍的に増加しています。

### 特徴ある専門健診・外来

当施設ならではの専門健診・外来も設定しています。例えば、脳専門医が詳細かつ的確な診断と指導を行う脳ドック・専門外来は、設立初期より大変好評を頂いています。また、女性に特化したレディースデー(毎水曜日)や乳がん検診としてマンモサンデー(日曜日乳がん健診)を設ける等、乳腺・婦人科検診にも力を入れています。さらに、各種ワクチン接種・渡航外来を設けており、豊富な知識と経験を有する専門医が、海外渡航者のための各種ワクチン接種・対応を行っています。これらの特色ある診療に関しては、別項でご紹介します。

写真2：人間ドックのご案内



写真3：クリニック年報



### 健診受診者の現況

受診者の年齢層は、50歳台(約30%)、40歳台(約24%)、60歳台(約18%)の年齢で全体のほぼ7割強を占めています。また、過去5年間における受診コース別にみた年間平均受診者数は、人間ドックが約6,500～7,000人、がん検診が約550～600人、企業健診が約8,000～8,200人、対策型がん検診が約8,400～8,500人、その他が1,500～1,600人となっています。

受診者は高槻市・島本町在住が約60%、茨木市在住が約16%で、両者で約3/4を占めています。その他、他府県を含め遠方より当施設を希望されて受診される方も年々増加しており、毎年受診されるドック・リピーターの方々も、この10年間で倍増しています。

### 大学病院との医療連携

健診者が当施設を利用する最大の誘因は、当施設が、①大学病院の附属機関であるから精度の高い診断が受けられ、且つ、②もし何らかの異常が発見された場合には大学病院での最新で高度な診療を受けられる、という信頼感と安心感にあります。

そのためにも当施設のスタッフには、大学附属施設としての自負を持って、より高いレベルの診断知識や技術を習得するように奨励しています。幸い、スタッフには各専門学会の資格認定者が多く、各自が積極的に講習会や大学病院での勉強会に参加して、研鑽を積んでいます。

また、健診にて要精査・要治療と判定された受診者には、希望や内容に応じて医療機関を紹介しており、なかでも大学病院へ積極的に診療をお願いしています。なかには内容の如何に関わらず大学病院への受診を強く希望される方もいて、受付が困惑する場合があります。誠に有難いことに、大学病院の各診療科には、無理な依頼も快く引き受けて頂いており、スムーズな連携体制が構築されています。改めてご支援・ご協力に感謝申し上げます。

### 今後の課題と展望

最後に、当施設の今後の課題や展望について思うことをいくつか挙げてみます。それは、大学とのさらなる連携強化、受診者の量から質への転換、業務デジタル化への対応およびデータ解析と発信等です。

当クリニックにおける検査や診断等の医療業務は、大学病院に大きく依存しています。当施設の健診は、中央検査部をはじめ、消化器内科や放射線科など、各科のご協力なしには成り立ちません。附属施設として、大学病院に要精査・要治療例を積極的に紹介していく上での患

者受入れや、スタッフ等の人事面での交流など、今後ともより密接な連携をお願いする次第です。

また、施設としての許容人数は既に上限に達しており、人的労力、施設規模の点で限界の状態になっています。今後は、やみくもに数を増やすというよりも、大学附属の健診施設としてドックを中心とした内容や質に配慮し、効率的業務の工夫を目指すべき時期にあると思います。さらに今後は、業務のデジタル化やAI技術の導入が急激に進むと予想され、それらに対応できる組織体制やシステム整備を急ぐ必要があると思われま

す。当施設には、これまで15年間にわたる、膨大で大変貴重なデータが集積されています。このビッグデータを解析し、その研究成果を学会や論文を通じて公表・発信し、疾患予防や健康維持に役立てなければなりません。それは大阪医科薬科大学の附属施設として為すべき社会貢献であり責務でもあります。設立当初の施設使命でもあった、「大学の教育・研究施設としての予防医学の実践と国民の健康寿命の延伸」を、今こそ形にすべき時にあります。

「Prevention is better than cure」この言葉を改めて思い起こし、受診者の方々に確かな安心と満足を提供できる施設、また健康寿命の延伸に貢献できる施設であるように、スタッフ一同、全力で取り組む所存です。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

▶ レディースクリニック

2009(平成21)年、未病を科学的に研究し、健康を生成するためのさまざまな方策を提唱するためにJR高槻駅ビルに大阪医科薬科大学の関連施設として健康科学クリニックが設立されました。ちょうど「健康日本21」という第一次の国民健康づくり運動が始まった時期です。当時、医科大学の部門のひとつとして人間ドックやがん検診を主体とする本格的な施設は数えるほどしかなく、近畿では初めての試みでした。私が産婦人科医であったこともあり、通常の予防医学の実践のみならず女性の健康生成を重視した「レディースクリニック」の色合いを持つ施設としてスタートしました。



後山 尚久先生

1983(昭和58)年に対策型がん検診として子宮がん検診が最初に導入され、その後乳がんマンモグラフィ検診(2000年から50歳以上、2004年から40歳以上)が導入されました。健康科学クリニックでは2009(平成21)年の開設時より、定型的な「人間ドック基本コース」に子宮がん、乳がん、および骨密度の検査項目を加えた「女性コース」を用意しました。また、女性

の受診者のみの健診を行うという「レディースデー」を水曜日に設定して活動を開始しました。ビルの4階を女性フロアとし、婦人科検診、マンモグラフィ撮影および乳腺超音波検査を行っています。2023(令和5)年度は男性の受診者数に比べて女性の受診者数は総受診者では1.7倍、働く世代の中心をなす30歳台～60歳台では1.9倍となり、女性に人気のある予防医学施設となっています。このように近年、女性フロアの稼働率は非常に高くなっており、子宮頸部高度異形成やステージ0、I期での乳がんの発見と適時医療介入により若年女性や子育て世代、勤労世代女性の可及的速やかな治療とその後の早期の社会復帰に貢献しています。

日曜日にマンモグラフィー検査を！  
マンモサンデー賛同医療施設です

J.M.S(ジャパン・マンモグラフィー・サンデー)は、子育て・介護・仕事・家事などで忙しく、平日に検診を受けに行きにくい女性の皆様が、休日の日曜日に「乳がん検診」を受けられるよう、全国の医療機関と認定NPO法人J.POSHが協力して毎年10月第3日曜日に乳がん検診マンモグラフィー検査を受診できる環境づくりへの取り組みです。健康科学クリニックでは開設当初よりJ.M.Sに参加しており、毎年100名を超える受診者に対し、乳がん検診のみならず、子宮がん、



**毎週水曜日は  
女性だけの日**

対象コース：

- 各種人間ドックコース
- がん検診コース(乳がん検診・子宮がん検診・乳・子宮高がん検診)

※市民検診は対象外です。

主な検査機器

- デジタルマンモグラフィ撮影装置

**女性のための診察フロア**

できるだけ女性に快適に検診を受けていただけるように、女性のみ受診できる女性専用のレディースデーを設けています。医師をはじめスタッフもできるだけ女性が担当します。





マンモグラフィ  
(トモシンセシス機能付)撮影装置



肺がん、胃がん、大腸がんの検診も受け入れています。5つのがん検診をセットで受診される女性も多く、9割以上が「来年もこの日曜日に受診したい」とアンケートに回答しておられます。

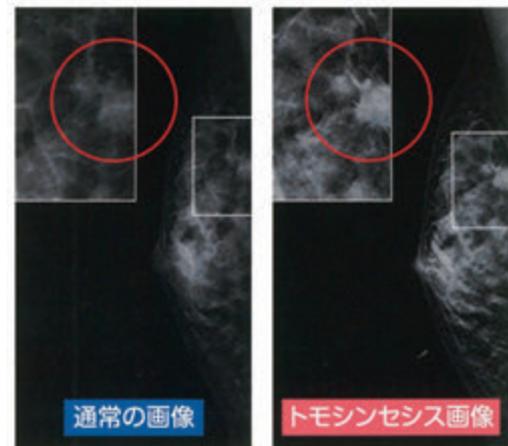
健康科学クリニックでは、10月のJ.M.Sに加えて年度末の3月にも日曜検診を実施しており、平日に検診を受けに行きにくい女性の健康生成を応援しています。

### 乳がん検診に注目の3Dマンモグラフィ「トモシンセシス」

トモシンセシス撮影はX線の連続的照射により奥行き方向(3次元的)に細かくスライスした断層画像が複数枚得られます。そのため通常撮影では認識できない腫瘍が明瞭化することや、精査が必要とされるような所見が正常乳腺の重なりと判断できることがあり、乳がん検診の精度が向上します。たとえば要精査とすべき放射状のひきつれ像(構築の乱れ)はトモシンセシス撮影ではくっきりと確認できることがあります(図1)。

また、通常撮影に比べて乳房の圧迫力が約40%に軽減されるので、受診者の痛みもかなり軽減されます。

図1：マンモグラフィ撮影画像比較



### 女性を元気にする予防医学の実践

21世紀に入ってから「健康寿命」が注目されるようになり、それと同じく「生活の質」にも意識が高まってきました。病気の一步手前とされる「未病」の発見と早期の医療介入による健康生成は「生活の質」を高く保持することになります。

女性を元気にする、女性の「生活の質」を高める、女性の社会活動を応援することをスローガンのひとつとして、健康科学クリニックはこれまでと同様、これからも全力で予防医学の実践に励みたいと思います。

表1：人間ドック 女性向けオプション検査一覧

#### ● 乳腺の検査

最新マンモグラフィ検査 (トモシンセシス機能付)	13,200円	通常のマンモグラフィ撮影は数センチの厚みのある画像ですが、トモシンセシスは1ミリ程度のスライス画像になるため、通常のマンモグラフィ検査では見つからないがんを見つけるのに有効です。
乳腺エコー検査	4,400円	超音波を用いて、乳腺や乳管の状態や腫瘍の有無などを調べ、乳がんを早期に発見するための検査。
マンモグラフィ検査	4,400円	早期乳がんのサインとなる石灰化や、しこりとして触れないタイプの乳がんを発見するのに有効です。

#### ● 婦人科(子宮・卵巣)の検査

子宮細胞診(頸部)検査	3,850円	子宮の入口付近を専用のブラシやヘラでこすって細胞を採取し、子宮の入口にできる子宮頸がんや、前がん状態を検査します。
HPV検査	6,050円	子宮頸部から採取した細胞を使い、子宮頸がんのリスクとなるHPV感染の有無を調べます。
子宮細胞診(体部)検査	6,050円	子宮の中に挿入した細い棒の先で内膜をこすって細胞を採取し、子宮の奥(内膜)にできる体部がんを検査します。痛みと少量の出血を伴うことがあります。
経膈エコー検査	4,400円	超音波を用いて、小さな子宮筋腫や卵巣の腫大の有無・子宮内膜の異常などについて、詳しく調べます。検査は短時間で終わり痛みを伴いません。

#### ● 骨粗鬆症の検査

骨密度測定	3,850円	骨粗鬆症かどうかを調べる検査です。骨塩量を増やせる余地のある40歳代に一度は受けたい検査です。検査は座った状態で1分程度装置に腕を置くだけです。
-------	--------	--

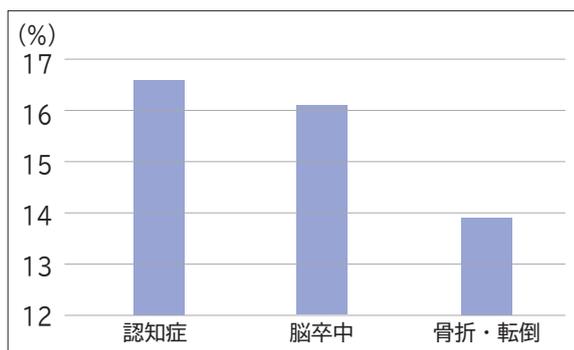
## ▶ 脳ドック

人生100年時代に突入し、健康寿命の延伸が重要な課題となっています。特に、要介護状態になる原因の1位が認知症で2位が脳卒中です(図1)。脳の健康を守ることが要介護の防止には重要です。健康寿命の延伸には脳の健康状態の検査と対応が不可欠です。健康科学クリニックでは、脳卒中や認知症を予防するための先進的な脳ドックを提供しています。



梶本 宜永先生

図1：要介護の主原因(%)



## 脳ドックで認知症と脳卒中を未然に防ぐ

脳は再生能力が乏しく、一度ダメージを受けると回復が非常に難しいため、予防が特に重要です。脳卒中や認知症は、20年以上にわたる準備期間、いわゆる「仕込み」の期間があります。脳ドックでは、脳卒中や認知症のリスクがどの程度進行しているのかを評価でき、早期に適切な対策を講じることが可能です。これにより、未来の要介護リスクを未然に防ぐことができます。

## 健康診断や人間ドックの限界を超える

従来の健康診断や人間ドックにはいくつかの課題があります。例えば、リスクがどの程度切

迫しているのかわからない、説明を行う医師が脳卒中や認知症に特化した知識を持っていない、結果の説明が個別に合った解決策に繋がりにくい等です。また、医療だけでなく、アンチエイジングやライフスタイルに基づく具体的なアドバイスが不足していることもあります。

健康科学クリニックの脳ドックは、これらの問題を解決するために設計されています。脳ドック学会の指針を踏まえつつ、さらに詳細なアドバイスが脳外科専門医によって提供され、患者さんに最適な解決策を提案します。

以下に具体的な評価項目を列挙します。

## 評価項目

## 1. 動脈硬化の進行を多面的に評価

- **大動脈**：PWV(脈波伝搬速度)を用いて血管の硬さを評価します。高いPWVは心血管系への負担が増していることを示します。
- **中動脈**：頸動脈エコーやMRAで動脈硬化の進行具合を確認し、プラークやIMT(内膜・中膜厚)の評価が行われます。これらによりコレステロールの沈着の進行が評価でき、高脂血症や高血圧の治療の必要性が分かります。
- **細動脈**：脳血流の調整に重要な細動脈の硬化が進むと、深部白質病変、微小出血やラクナ梗塞を引き起こすことがあります。これらは脳卒中リスクの増加に繋がるため、早期の血圧管理が重要です。

## 2. 認知症リスクの総合的な評価

- **アルツハイマー型認知症やレビー小体病**：海馬萎縮の有無やその程度をVS-RAD(早期アルツハイマー型認知症診断支援システム)で解析し、認知機能検査(MMSE、HDS-R)を通じて認知機能の低下を評価します。

- **血管性認知症**：MRI検査で深部白質病変や脳梗塞、微小出血の有無を調べ、脳の虚血性ダメージの進行度を評価します。主に高血圧が原因となるため、血圧管理が重要です。
- **正常圧水頭症**：MRI検査で脳室拡大や脳溝サイズを測定することで、正常圧水頭症とその予備群を早期に見つけます。正常圧水頭症は、80歳以上の人口の8%が罹患する治療可能な認知症ですが、発見が難しく95%以上が見逃されています。60歳頃からその初期変化が検出できます。

### 3. 運動不足の評価

健康長寿には、適度な運動が欠かせません。特に、運動不足による筋肉の衰えは、インシュリンの効果が低下する原因となり、インシュリン抵抗性(HOMA-R)として評価されます。他に、運動不足の指標としては、HDLコレステロール値低下や安静時心拍上昇などがありますので、これらを総合的に評価します。

### 先生方やご家族にもおすすめ

健康科学クリニックの脳ドックは、先生の受け持ち患者さんだけでなく、50歳以上の先生御本人やそのご家族にもおすすめです(図2、図3、表1)。受診者の評価も高く、リピーター率が高いのが特徴です。また、健康科学クリニックの内部スタッフやその家族も積極的に脳ドックを受けており、医療現場で働く者からも高い評価を得ています。

### 脳ドックのまとめ

認知症や脳卒中など、脳の疾患を未然に防ぐためには、定期的な検査が必要不可欠です。健康科学クリニックの脳ドックは、先進的な検査と専門的なアドバイスを提供し、患者さん一人ひとりの健康リスクに対応した最適なプランを提示します。特に50歳を過ぎた方々にとっては、今後の健康を守るための重要な一歩となります。脳ドックを受けることで、未来の自分と家族のために健康寿命を延ばし、要介護状態を避けるための準備をしましょう。

図2：脳ドックのご案内

**脳ドック** / ¥57,200-(税込)

脳動脈瘤、脳動脈硬化、脳血管狭窄などを早期発見し、脳梗塞や脳出血などを予防する検査。

- 身体測定 ● 尿検査 ● 血液検査(動脈硬化関連のみ) ● 心電図
- 頸動脈エコー ● 血圧脈波 ● MR検査(MRA+MRI)
- 診察(頸部・心血管の疾病の有無・神経学的診察を含む)(後日)

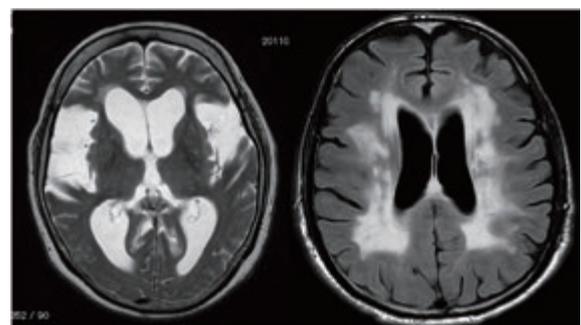
---

**脳ドックプレミアム** / ¥68,200-(税込)

脳ドックに加えて、認知症の早期発見に効果がある特殊なMR撮影を追加し、認知症の兆候の有無を検査。

- 脳ドック+認知症診断のための特殊MR検査

図3：認知症MRI症例写真



正常圧水頭症

血管性認知症

表1：人間ドック 脳の病気や認知症が気になる方へのオプション検査

MRA+MRI検査	33,000円	MR検査は強力な磁石でできた筒の中に入り、磁気を利用して体の臓器や血管を撮影する検査です。放射線による被曝の心配はありません。脳の萎縮の程度を調べたり、脳の疾患(梗塞・出血・動脈瘤など)の発見に有効です。
-----------	---------	--

※人間ドック(基本コース・肺コース・女性コース)にのみ追加できるオプション検査です。

※当日の追加はできません。ご注意ください。

※MRA・MRI検査の予約状況により、人間ドックの予約日を変更していただく場合がございます。ご了承ください。

※ペースメーカーや人工内耳装置、閉所恐怖症の方はMR検査が受けられない場合がございます。また、体内に金属が入っている方はMR検査が受けられないことがあります。

## ▶ 海外渡航者外来

## 渡航医学の概要

渡航医学は、1960年代にグローバル化の進展とともに誕生した比較的新しい医学分野です。1990年代以降、海外渡航する日本人は飛躍的に増加し、その渡航先も東南アジアやアフリカなど多岐にわたるようになりました。それに伴い、旅行者下痢症やマラリアなどの健康問題が続出し、企業の駐在員の健康維持も重要な課題となってきました。



小川 拓先生

渡航医学は、海外旅行者が渡航先で健康問題を生じ、その渡航目的を達成できなかつたり、命の危機にひんしたりする可能性を下げることに主眼を置いた医学領域です。その特徴として、予防接種や予防内服等の治療に加え、メンタルヘルスの維持、現地の治安に対する注意喚起、テロに遭遇した時の適切な対処など、従来の医学領域を超えた広範な対応が必要とされます。

このような性質から、渡航医学は極めて学際的な分野となっています。予防接種学、感染症学といった臨床医学、微生物学や免疫学といった基礎医学分野から、精神医学、産業医学、航空医学、高所医学、社会学まで、幅広い知識が求められます。さらに、公衆衛生学的なアプローチも欠かせません。また、外務省や検疫所との連携、航空会社や旅行会社などの企業との情報共有など、行政や産業界との協力も重要な要素となっています。これらの連携を通じて、最新の医療情報や現地の医療事情に関する知見を収集し、それを渡航者への適切なアドバイスに活かしています。

## 海外渡航者外来の役割と対象

海外渡航者外来は、さまざまな目的で海外に渡航する人々を対象とした専門外来です。その対象は大きく分けて、ビジネス・外交・留学などのフォーマルな渡航者と、観光目的の渡航者に分類されます。フォーマルな渡航者には、海外(特に途上国)に展開する企業の海外駐在員や、海外の学校に留学する学生が多く含まれます。観光目的の渡航者には、バックパッカーから団体旅行者、一人旅の方まで、さまざまな旅行スタイルの方々が受診されます。

提供する医療サービスは、渡航先や滞在期間に応じたワクチン接種の提案と実施、マラリアや高山病の予防薬の処方、さらには時差ぼけ対策まで多岐にわたります。また、留学やビザ申請に必要な健康診断書の作成も重要な業務です。これらの診断書には、予防接種歴や持病、常用薬の情報、航空機への搭乗可否に関する意見、就労ビザ発行や入学の可否判断に関わる内容など、繊細な情報が含まれます。そのため、細心の注意を払いながら、受診者の海外渡航が円滑に進むようサポートしています。

海外渡航に関連した健康問題は深刻な影響を及ぼす可能性があります。言葉が通じない環境での治療、日本のような手厚い看護を期待できない状況、高額な医療費の問題など、さまざまなリスクが存在します。また、観光旅行では体調不良により行程をこなせず、同行者に迷惑をかけてしまうケースも少なくありません。

加えて、渡航先での事故や犯罪から身を守るための安全指導も重要な役割です。交通ルールや運転マナーが日本と大きく異なる国々での交通事故予防、スリや置き引きなどの一般的な犯罪への注意喚起、そして治安の悪い地域での行動指針など、渡航先特有のリスクについても情報提供を行っています。

このようなリスクを踏まえ、我々は時に渡航の是非について受診者に意見を述べることもあ

ります。例えば、生まれたての新生児を連れての 아프리카 渡航、精神疾患のコントロールが不十分な状態での渡航、高齢で心肺機能の低下した受診者の高所への渡航などについては、受診者の安全を守るため、慎重な判断を促しています。このように、渡航前の適切な予防措置と情報提供が極めて重要となっています。

### 大阪医科薬科大学健康科学クリニック 海外渡航者外来の特色

大阪医科薬科大学健康科学クリニックの渡航外来は、COVID-19 禍の間に活動が停滞していましたが、2023(令和5)年7月に「海外渡航者外来」としてリニューアルオープンしました。

完全予約制を採用し、初診時には30分から45分の診察時間を確保することで、渡航先での健康リスクや必要な予防措置、現地の社会情勢、交通事情に至るまで、きめ細かな説明を提供しています。

スタッフ体制も充実しており、現在6名の医師が外来を担当しています。そのうち、以下の資格を持つ医師が在籍しています。

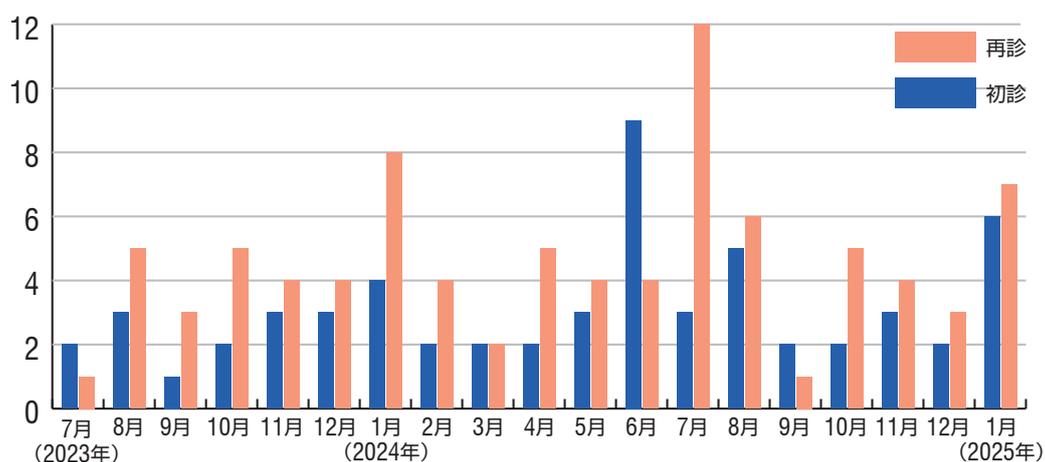
- 国際旅行医学会(ISTM)認定医療職(CTH®)：1名
- 日本渡航医学会認定医療職：2名
- 日本旅行医学会認定医療職：1名

これらの医師が経験豊富な医療チームを構成しています(表1)。2023(令和5)年7月以降の受診者数は図1に示すとおりで、季節変動は

表1：担当医師一覧

担当医師	資格	所属
小川 拓	国際旅行医学会(ISTM) 認定医療職(CTH®) 日本渡航医学会 認定医療職	大阪医科薬科大学病院 感染対策室 室長・講師 大阪医科薬科大学 医学部 微生物学・感染制御学教室
西本 泰久	日本旅行医学会 認定医療職 日本旅行医学会 理事	京都橘大学 健康科学部 教授
中西 雅樹	日本渡航医学会 認定医療職 Diploma in Tropical Medicine	京都岡本記念病院 感染症科 部長
中野 隆史		大阪医科薬科大学 医学部 微生物学・感染制御学教室 教授
上田 英一郎		大阪医科薬科大学病院 QI管理室 室長・教授
田中 智子	日本小児科学会小児科専門医	大阪医科薬科大学病院 感染対策室 副室長・助教 大阪医科薬科大学病院 小児科

図1：2023年7月以降の受診者数の推移



あるものの好調に推移しています。

当外来では渡航前に必要とされる感染症や予防接種の知識を、当院独自のリーフレットを用いて説明したうえで、受診者の金銭的負担や渡航形態などの状況を勘案して、十分な共同意思決定(Shared decision making)を経て決定し、必要な予防接種や予防内服薬の投与を行っています(表2)。現在使用可能なワクチンは国産品に限られていますが、今後海外留学で必須とされることが多い成人用三種混合ワクチンであるTdapなど、未承認輸入ワクチンの導入も検討しています。

また、診療活動に加えて学術活動にも力を入れています。国立国際医療研究センターが実施する渡航前関連レジストリ研究への参加や、関西渡航医学研究会を通じた地域の医療従事者への啓発活動を行うなど、渡航医学の発展にも貢献しています。

さらに、渡航前のケアだけでなく、帰国後の体調不良への対応体制も整備しています。帰国後の発熱などについては、大阪医科薬科大学病院の総合診療科内にある感染症外来で対応しています。重症熱帯熱マラリアなど、当院での治療が困難な疾患が疑われる場合には、大阪市立

表2：予防接種価格一覧

ワクチン種類	院内在庫	薬品名	生・不活化	価格(税込)
A型肝炎	○	エイムゲン	不活化	8,700円
B型肝炎	○	ヘプタバックス-Ⅱ	不活化	6,200円
麻疹風疹混合	○	ミールビック	生	8,800円
麻疹単独	取り寄せ	乾燥弱毒生麻しんワクチン「タケダ」	生	6,000円
風疹単独	取り寄せ	乾燥弱毒生風しんワクチン「タケダ」	生	6,000円
おたふく単独	○	乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン「タケダ」	生	6,500円
水痘単独	○	乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」	生	7,300円
狂犬病	○	ラビピュール筋注用	不活化	15,300円
日本脳炎	○	ジェービックV	不活化	7,700円
髄膜炎菌4価(ACW-135,Y)	○	メンクアッドファイ	不活化	25,000円
4種混合※1	取り寄せ	クアトロバック皮下注シリンジ	不活化	10,800円
3種混合※2	○	トリビック	不活化	5,000円
不活化ポリオ	取り寄せ	イモバックスポリオ皮下注	不活化	9,700円
破傷風単独	○	沈降破傷風トキシイド「生研」	不活化	3,900円
肺炎球菌	取り寄せ	ニューモバックスNP	不活化	9,300円
肺炎球菌	取り寄せ	プレバナー 13筋注	不活化	12,000円
インフルエンザ菌b	取り寄せ	アクトヒブ	不活化	8,700円
HPV4価	取り寄せ	ガーダシル水性懸濁筋注シリンジ	不活化	16,000円
HPV2価	取り寄せ	サーバリックス	不活化	
带状疱疹	取り寄せ	シングリックス筋注	不活化	21,500円
BCG	取り寄せ	乾燥BCGワクチン(経皮用・1人用)	生	9,400円

※1：4種混合 → 破傷風・ジフテリア・百日咳・不活化ポリオ

※2：3種混合 → 破傷風・ジフテリア・百日咳

詳しくはホームページ(<https://www.omputravel.com/>)まで

総合医療センターをはじめとする熱帯病治療薬研究班研究実施医療機関と連携し、適切な医療を提供できる体制を構築しています。

### 予防医学としての重要性

海外渡航者外来における予防医学の重要性は、年々増加の一途をたどっています。新興感染症の世界的流行や薬剤耐性菌の問題など、新たな健康リスクが次々と顕在化する中、渡航前の予防措置の重要性は一層高まっています。

私たちの外来は、「異国で病む」ことの辛さを深く理解し、その予防に全力を注いでいます。通常の臨床医療が治療に重点を置くのに対し、渡航医学では予防に主眼を置き、疾病を未然に防ぐことを最優先としています。

このような予防的アプローチを通じて、渡航者の安全で快適な海外生活を支援することは、個人の健康を守るだけでなく、医療費の削減や社会的損失の防止にも貢献しています。私たちは今後も、渡航者一人一人の健康と安全を守るため、予防医学の実践に取り組んでまいります。

### 渡航医学の専門家として

海外渡航者外来は、グローバル化が進む現代社会において、ますますその重要性を増しています。当外来では、渡航前の予防接種から健康診断書の作成まで、患者さん一人一人のニーズに合わせた総合的なサービスを提供しています。今後も、予防医療の質の向上、国際的な医療ネットワークの拡充、新興感染症への対応力強化に向けて、努力を続けてまいります。

渡航医学の専門家として、安全で快適な海外渡航をサポートすることが、私たちの使命です。